



代表 牧田 貴久彦

ペットの火葬時間を短縮 家族の心の負担軽減に努める

概要

ペットの飼い主が火葬サービスに抱く不安や疑念を取り除くため、新たな高機能スペック火葬炉を導入。火葬時間の短縮と火葬の見える化をしたことにより、安心感や満足度を与え、信頼度をアップさせるサービスを提供できる仕組みを確立

本事業への取り組みの経緯

近年、犬や猫をはじめとするペット需要は高まりをみせている。また、ペットとの関わり方も徐々に変わりつつあり、家族同様に愛情を注ぐ人も増えている。可愛がってきたペットとの別れを迎え、永遠の眠りについたペットの最期をしっかりと見送るというニーズも高くなっている。

愛の森には、葬儀を行う葬儀室をはじめ、個別火葬した場合にお骨を拾うことができる拾骨室、火葬が終わるまで待機する待合室、休憩ロビーを備えている。また、葬儀にあたるお別れの式では、火葬、拾骨、納骨を経て、動物供養碑や墓地、納骨堂などへの埋葬まで、ペットを送り出せるように精一杯サポートしてきた。さらに、月例で毎月執り行う永代供養祭や、亡くなって1年目の一周忌法要、三回忌、七回忌、十三回忌、物故動物慰霊祭として春と秋に大法要を行うなど、飼い主の心に寄り添ってきた。

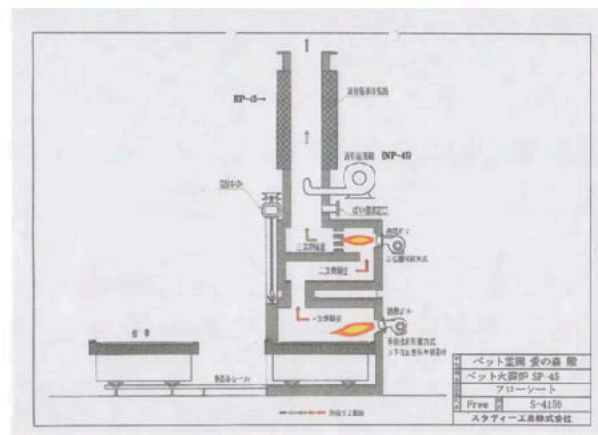
一方、設備面では火葬炉3基を備え、小型のハムスターなどの小動物や、小型の犬や猫、50kg程度までの大型犬の火葬に対応してきたが、拾骨までに1時間半から2時間程度かかり、家族への心労が大きかった。また、50kgを超える大型犬などの要望すべてに対応できず、所要時間も3時間ほどを費やしていた。さらに、焼却の際、動物特有の油が体内から放出され、悪臭や黒煙などが発生していた。そのため、大型犬など多様なニーズに応えつつ、稼働率を上げ、環境への影響や家



50kgを超える大型犬などにも対応できる新たに導入したペット火葬炉



ペット火葬炉の内部。炉床の中央に残脂が流れ込み、下で回収できるようになっている。火葬時間が1時間短縮され、30分ほどで火葬できるようになった



ペット火葬炉の構造

族の心の負担をより減らすことが課題となっていた。

事業概要

新たに導入したペット火葬炉SP-45は、犬や猫など動物ペットの火葬及び収骨を目的とした設備で、炉体附設の断熱扉（昇降式）を開け、台車にペット遺体を乗せた状態にして炉内に投入し、火葬を開始する。

大きな特徴は、火葬時間の短縮と無害、無臭の火葬を実現できる点である。火葬業務は、再燃焼バーナーを着火させ、再燃焼室の燃焼温度を800℃以上に上げた後、炉後面の主燃焼バーナーを着火させ火葬を行う。その際、これまでの炉では、体毛に着火することで発生する大量のガスによる弊害や、比較的脂肪分の多い動物の火葬など異常燃焼を起こすと、約5分間に渡り、低燃焼または送風燃焼を行う必要があった。

今回の炉は、炉床の中央に残脂が流れ込み、下で回収できるようになっており、火葬時間の短縮が図ることができる。さらに、排ガスは脱臭・消煙を目的とした二次燃焼室、三次燃焼室により構成された再燃焼室に入り、800℃以上の高熱で確実に分解処理するため、発生ガスは清浄となり、付属の誘引送風機のエアー力に助けられながら、



お別れ式を行う葬儀室

大気への放出が可能となった。

事業成果

新たなペット火葬炉の導入により、火葬時間が従来の1時間30分から約1時間短縮することができ、30分ほどになった。また、環境基準を下回る良好な条件で無害、無臭の火葬を実現した。さらに火葬炉のそばで飼い主による立ち会い収骨が可能となったほか、手順書を作成したことにより、お別れセレモニーから拾骨までの見える化体制を整備し、家族の心のケアにも配慮することにつながった。これらは新たなサービスを提供するための仕組みづくりとなった。

成果の活用状況 (補助事業実施後の取り組み)

これまで、各務原市や岐阜市を中心に、瑞穂市や本巣市、愛知県一宮市、江南市、犬山市など近隣からの来客だったが、50kgを超える大型犬にもスムーズに対応できるようになったことから、新規顧客層への展開と商圏拡大などの対策を講じ、ニッチな産業ながら、心温まる「心の産業」を展開していきたいと考えている。



拾骨されなかったお骨が眠る動物供養之碑